

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770600205		
法人名	医療法人真寿会		
事業所名	グループホームまきや		
所在地	沖縄県宮古島市平良字西原2251-147		
自己評価作成日	平成30年9月14日	評価結果市町村受理日	平成31年 2月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4770600205-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=02">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4770600205-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成30年10月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.ドクターゴン診療所、うむやすみやあす・ん診療所、下地診療所の訪問診療を利用しており、月2回の往診と緊急時には24時間対応できる状態になっており、医療連携体制が整っている。</p> <p>2.入居者が自分らしく尊厳のある暮らしが送れるように、毎日朝礼を行いスタッフ全員がケアの意識を統一し日々のケアに取り組んでいる。職員は、家庭的な雰囲気づくりを心がけ、明るく笑顔あふれるケアを行っている。</p> <p>3.敷地内は緑に囲まれており、いつでも草木に触れることができる環境である。</p> <p>4.家族関係は良好で、日々の面会や行事等への参加も多い。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は緑豊かな集落内にあり、利用者は居室や共用部分等、広々としたスペースの中で暮らしている。おやつを含め三食とも専任の厨房スタッフの手作りで、利用者の状態と食材によって形態を変える等の配慮をしながら調理している。意思を伝えることが困難な利用者の思いや表情をくみ取り、誕生会や散歩、日々のケアの中で少しでも利用者の笑顔が増えるような支援をしている。訪問診療を含め全員が利用開始前からのかかりつけ医を受診し、利用者の健康管理のために受診結果を口頭または電話で家族と共有している。家族からの要望を受け、医師や看護師と連携を図り、過去に三人の看取りを行った実績がある。介護計画の見直しやモニタリング等に担当職員が参加し、情報を共有しケアプランの変更をする等、細やかな支援をめざしている。管理者は、やり甲斐のある職場、働きやすい職場にするために職員の昇級や皆勤手当等の支給を実現、超過勤務をなくす等、就業環境の改善に努めている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、介護の理念を居間に掲示し、スタッフがいつでも確認できるように努めている。また、会議の内容に応じて理念を用いて話し合うなど、ケアの統一を図っている。	設立当初から掲げている理念を元につくったわかりやすい6項目の目標を朝の挨拶の時に、職員と利用者が読みあげている。事業所が家庭の延長となることができるように、あえて日々の個別活動を決めず、利用者の意思や自主性を尊重する支援に努めている。管理者は日々の支援の中でたえず理念に立ち返ることできるように、常に職員と話し合うことをこころがけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や敬老会などの域行事への参加をできる限り行っている。 また、自治会長の養っている山羊牧場へ散歩に出かけるなど地域とのつながりがある。	自治会に加入し、事業所が面している道路等の清掃を担当したり、集会所を借りて開催する事業所の敬老会や地域の敬老会に参加したりして地域との交流をはかっている。県の委託を受け、専門学校の子生の職場見学を受け入れたり、地域の高校生対象の認知症サポーター養成講座の講師として管理者が出向いたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター養成講座の実施や地域の小学校、中学校にサポーター養成講座の取り組みを伝え、認知症への理解を深める働きを行っている。 また、介護初任者研修修了者の職場見学の受け入れなども行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の年間6回開催は実施出来ている。構成員は、宮古島市役所職員、地域包括支援センター、他グループホーム職員、自治会長を招いて、2ヶ月に1回開催している。 毎回様々な意見交換が出来ており、サービス向上に大いに活かしている。	年間6回開催する運営推進会議に利用者や利用者家族をはじめ、行政や地域包括支援センター職員、知見者、地域代表が参加し、双方向の活発な意見交換をしている。他のグループホームの運営推進会議に知見者として参加し、「非常用小型発電機の有効性」を知り、事業所にも取り入れている。運営推進会議録は、訪問者が閲覧できるように掲示されているのを確認できなかった。	運営推進会議録は運営の透明性を示すものであり、事業所内での閲覧が可能な取り組みを期待したい。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は定期的に関係機関へ出向いたり、電話連絡などで、協力関係を築いている。また、当事業所の運営推進会議だけでなく他事業所の運営推進会議にも参加しており、その市町村担当者との交流や連携も行えている。	管理者は、行政の担当窓口へ直接または電話等で連絡を取り、相談しやすい関係性をつくることができるよう努めている。また、他事業所の運営推進会議に参加し、他地域の担当者や民生委員等との交流を図り、ケアサービスの向上につながる支援をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を定め、職員全員に周知徹底を図っている。日中は、入居者の自由な生活を尊重する為、玄関・出入り口を開放している。利用者が外に出た場合は、声かけ・付き添いを行い安全面に配慮している。	身体拘束をしないケアの理解のために利用開始時に家族から同意書をとっている。日々のケアの中で、物理的な身体拘束はもとより、言葉による拘束についても考えることができるよう、管理者は折にふれて職員に問いかけながら、利用者の安全を確保しつつ、自由な暮らしやすさを支援する取り組みにつなげる努力をしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設置し、3月に1回委員会を行っている。「身体拘束廃止に関する指針の周知徹底」「身体拘束とは」「身体拘束及び虐待をしないために」など様々なテーマを設け、同委員会にて研修を行っている。	職員は、利用者や利用者家族が不快に思うことをすべて虐待と捉え、入浴や排泄時の介助ケアの導入段階から利用者が心地よく過ごせるような対応ができるように心がけている。管理者は、利用者への対応を最優先するように指示し、簡素化できる業務は簡素化し、職員のストレスがケアに影響しないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の日常生活費の管理を利用している入居者がいる為、勉強会を行い職員全員で理解をするよう努めている。また、権利擁護の支援員との関わりを密に行い、制度を有意義に活用できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、分かりやすい説明を心がけ、入居者・ご家族が十分に理解された上で契約を行っている。また、契約後でも分からない事があれば、その都度説明し理解をしていただけるよう努めている。	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に入居者の暮らしぶりなど状態報告や相談等、常に利用者・ご家族の意見に耳を傾け、要望には柔軟に対応できるよう努めている。	利用者家族からの「運動内容の変更を検討して欲しい」という要望を受け、ケアプランに反映させたところ、他の利用者も参加を希望し、最終的には全利用者が参加する体操や散歩等の見直しにつながったことがある。家族が訪問した際に文書で意見を伝えることのできる意見箱等の設置が望まれる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、全職員参加のミーティングを行っている。日々の業務や申し送りの中で出たアイデアや気づきを話し合い、より良い運営ができるように努めている。	管理者は、職員の表情変化や不調が感じられるときに随時面談を行い、日頃から職員が意見を言いやすい環境づくりに心がけている。利用者に関わるイベントを企画する際に担当職員の自主性を尊重したところ、利用者の満足な表情につながる支援に結びついた。シフト変更や待遇改善等も柔軟に対応している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場を目指し、常に職員と話し合い、勤務状況や努力をしっかりと見極め、職場環境・条件の整備に努めている。 また、担当制度を導入することで、職員の意見や判断を尊重するよう心がけている。	管理者は「昇給」や「皆勤手当支給」等の待遇改善をし、職員のやり甲斐を引き出す工夫をしている。職員の個性が利用者の変化に直接結びつくように、誕生日等の行事を担当性にしたところ、職員の達成感が高まった。ほぼすべての職員が正規雇用である。職員同士で声を掛け合い、残業等のない関係性を築くことを心がけている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	定期的に内部研修や勉強会、外部から講師を招いた勉強会などを行っている。介護職員にも可能な限り外部研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度に引き続き、管理者が宮古島市グループホーム連絡会の会長を務め、情報交換や勉強会を行っている。また、他事業所の運営推進会議に参加したり当事業所の運営推進会議に他事業所職員を招いて意見交換を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、不安な気持ちにさせない為にも、まずは何気ない日常会話から入り、安心していただけるよう心がけている。その中で、不安や要望を引き出し、より良いケアプラン作成に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談にて、性格や生活歴等の聞き取りを行い、不安や要望に耳を傾けている。また、不安や要望の訴えが無くても、それを上手く引き出せるような話し方を心がけ、安心していただけるよう努めている。 さらに、ご家族が気軽に相談できるように管理者への連絡は日時や時間の設定を設けず、いつでも対応できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の面談にて得た情報に基づき、入居者のご家族の意見を聞き、必要としている支援を見極めるよう努めている。ニーズの確認後、必要であれば他のサービス利用を検討したケアプランを作成し、入居者・ご家族の同意を得た上でサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や洗濯・掃除などの日常生活を共に行い、互いに支えあう関係づくりに努めている。一人ひとりの能力に応じて様々な役割を検討し、皆で支えあう生活が行えるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず状況報告を行っている。また、面会時間の制限を設けず、いつでも面会できるような環境を作り、入居者のご家族の絆を大切にしよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に散歩やドライブを計画し、生まれ育った場所やなじみの場所へ出向いている。また、面会時間の制限を設けない等、知人・友人が訪問しやすい環境を作っている。	利用者の出身地や自宅周辺のドライブ等で生まれ育った場所との継続性を維持できるような支援をしている。毎月友人が好物を持参し、会話を楽しむ利用者や、出身地のハーリーに必ず応援に行く利用者がいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレク、おやつ時間には職員と共に過ごし、利用者同士の関係づくりの支援を行っている。居室に孤立している場合は、本人の意志を尊重しながら、声かけを行い交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の相談援助だけでなく、退居後であっても、随時相談を受け入れ、対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や要望を自らの言葉で伝えることが困難な方に対しては、日常会話の中でふと発する言葉や仕草、表情の変化などを観察し、職員間で話し合いながら希望・要望の把握に努めている。また、言語障害がある方にはクロスドクエション又は五十音表を用いて意志を把握できている。	普段感情を表に出さない利用者が、ふとした時に見せる笑顔や涙の理由を意識して支援している。散歩は、「職員がじっくり利用者の話を聞く時間」ととらえ、事業所利用前の趣味や特技や好きな番組等の情報を入手し、ミーティングの際に職員同士で共有し、ケアに活かす工夫をしている。本人のタイミングで意志確認ができるように、言語化が苦手な利用者の車いすの背もたれポケットに五十音表を準備している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、本人との会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方などを聞き、把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おおまかな一日の流れに沿いつつも、本人の状態や意向を確認しながら、状況把握に努め、本人の意志を尊重した寄り添う支援を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議にて、スタッフやケアマネージャーの意見やアイデアを話し合い、より良い暮らしの実現に向けて取り組んでいる。また、状況の変化に応じて、担当者会議を開催し、本人・ご家族の意向を確認しながら計画の見直しを行っている。	直接関わっている担当職員の声を反映しながら、モニタリングは毎月実施し、介護計画は6ヶ月おきに見直しをしている。担当職員の情報を受け、利用者の現状とてらしつつ、食材によって食事の形態をきざみ食や普通食に変えたり、日中の活動等を見直したり等、ケアプランの変更等もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとに毎日の申し送りにて、職員間で情報を共有し、状況変化への対応やケアの統一に努めている。また、申し送り時に出た意見やアイデアを介護計画の見直しに反映し、より良い介護計画の作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、通院・買物の支援や、地域の夏祭りなどのイベント事への参加など、必要や希望に応じて、臨機応変に対応している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて情報・意見交換を行い、資源の把握や開発に努め、関係機関との協力体制を整えている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、基本的に入居者・ご家族の希望を尊重している。医療機関への受診はご家族・職員が付き添い、状況報告を行っている。また、現在7名の入居者が訪問診療を利用しており、その際も状況報告を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者のこれまでのかかりつけ医である7か所の病院とかかわり、訪問診療や受診を支援している。7人の利用者は、3か所の病院から2週間に1回訪問診療を受け、利用者2人の受診は管理者が対応している。家族への報告は、面会時や電話などで行っている。利用者の状態変化などの相談や随時の問い合わせ等、主治医と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に、協力医院の看護師や訪問看護師への状態報告・相談・指示を仰ぎ、日々のケアに取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院受診時の付き添いや、状態変化時の連絡・相談や情報交換を行い、関係医療機関との連携体制を整えている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応マニュアルを作成し、職員間で勉強しながら周知徹底を図っている。また、ご家族への終末期に対する説明を行い、書面にて意志確認を行っている。意思確認は年1回を目安に行っている。	終末期支援については、急変時および終末期における医療や介護に関する意思確認書をもとに同意書を交わしている。終末期対応マニュアルをもとに、過去に3件の看取り実績がある。殆どの利用者や家族が事業所での看取りを希望していることをうけ、事業所は看取りを行う方針を示しており、年1回は職員間で勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、応急手当の方法や初期対応の訓練を実施している。	/	
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、災害時の対応の周知徹底を図っている。また、自治会の協力を得て避難場所を確保している。また、防火管理者講習修了者の4人を中心とした消防訓練は年に2回行っている。	災害対策については、平成30年1月消火訓練、2月夜間想定総合訓練、7月消火訓練が実施されているが避難訓練は1回のみである。各種災害マニュアルも準備されている。備蓄品として、水や食料品も準備していたが、台風24号と25号時に使い切り、現在、ガスコンロのみとなっている。運営推進会議の委員として参加している自治会長が地区の消防団長であることから、避難訓練等へのアドバイスを期待したい。	年2回昼夜想定避難訓練の実施及び、自治会長や事業所2階に居住している地域住民の参加、備蓄リストと備蓄品の準備が望まれる。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の気持ちを第一に考え、プライバシーに配慮した言葉かけや本人が判断しやすい言葉かけをする心がけている。また、職員会議にてコミュニケーション方法や認知症の方の心理状況などを勉強し、実践に繋げるよう努めている。	理念に「自主性を尊重し安心と尊厳のある生活」を掲げ、利用者の人格を損ねないケアを心がけている。日々の支援では、他の人の前でトイレの声かけや排便の確認をしないよう職員に注意している。女性利用者の場合、「着替えが終わったら教えてね」と声かけし、その場を離れる支援をしている。管理者は、職員に対し何事も自分自身に置き換えて考えるよう助言している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り入居者の意志を尊重した支援を行い、判断に迷うような場面では、複数の選択肢を提案するなど自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れに沿いつつも、無理強いせず、体調に合わせ本人の意欲を引き出すような支援を行っている。 趣味活動をしたり、テレビを見たりと自由な時間が過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を尊重し、髪型や服装など日頃からおしゃれを楽しんでもらっている。また、自己決定が困難な方に対しては、ご家族の意見を参考に、職員が共に考え、本人の気持ちに添った支援を心がけている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は、ゆっくりと会話をし、明るく家庭的な雰囲気のもと食事を楽しんでいる。お茶の準備や配膳など食事の準備や後片付けも職員と共に行っている。仲の良い入居者への配膳等を他の入居者に手伝って頂いたり、入居者同士の関係性も良好。	おやつを含め3食とも、食事作りなどを主とした職員が調理し、利用者へ提供している。食事時に使用するおしぼり畳みをする男性利用者や、食後の片付け等を行う利用者もいる、利用者の介助や職員の休憩時間となる食事時間に、職員と一緒に食事をとっていない。食事介助をしながら、「刻み食の見直し」や「残存能力に期待してスプーンと箸、両方準備する」などの工夫を職員間で確認し合って支援している。	利用者と一緒に食事を楽しむ工夫として、同じ食事を同じテーブルで一緒にとることや、生け花や食食用マットなどで食卓を彩る工夫を期待したい。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量をチェック表に記録している。10時、3時の水分補給以外でも様子を見ながら水分補給を促し、脱水が起こらないように注意している。夏場には冷蔵庫の中に麦茶を用意し、いつでも飲める状態にしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前には口腔ケアを行っている。自分で出来る方は、見守りにて磨き残しや残渣物が無いかチェックし、困難な方は介助を行い、口腔内の清潔を保っている。 協力医療機関であるサンデンタルクリニックに通い義歯の調整をされている入居者もいる。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートにより、一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるように歩行介助やトイレ誘導を支援している。また、夜間帯は、介助を気にしないでいつでも自力にて排泄が行えるように、ポータブルトイレや尿器を使用するなど一人ひとりに合わせた排泄ケアを行っている。	利用者個々の排泄パターンやしぐさ、表情等を把握し、トイレへの声かけや介助を行っている。たとえば排泄の意思表示が車椅子使用時の姿勢の変化だった利用者をトイレに誘導し、排泄が可能になったり、リハビリパンツを外せた利用者もいる。日中はトイレ利用を中心に、夜間トイレまで行けない利用者にはポータブルトイレ等による排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートにより、毎日一人ひとりの排便チェックを行っている。午前、午後の散歩と10時・3時に体操をお行う際に水分補給をセットで行い、便秘にならないような取り組みに努めている。また、下剤に頼らず乳製品の摂取により腸内環境の改善に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間に入浴時間を設定し、コミュニケーションを取りながらの入浴介助に努めている。入浴を拒む方については、無理強いせず、時間を空けて声かけしたり、職員を交代するなど、柔軟に対応している。	入浴は曜日を決めず、午前と午後の2回設定、入浴前からコミュニケーションをはかり、利用者の意向に沿った支援を大切にしている。気分によって入浴に難色を示す利用者には、「足に薬を塗りましょう」「温めると肩こりが楽になりますよ」等、利用者の個性にあった声かけを職員全員が理解・共有し、気持ちよく入浴のできる支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安で眠れないときや落ち着きがない場合は、声かけにてコミュニケーションを図ったり、温かい飲み物を提供をするなど安心して入眠できるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、副作用については、病院からの内服薬説明書を読んで、理解するよう努めている。内服薬説明書は個人台帳にファイリングし、職員がいつでも確認できるようにしてある。また、服薬変更時はスタッフ是認に申し送りを行い、服薬後の状態変化等に気を付けている。	服薬支援については、薬の管理を事務所でを行い、常に職員2人体制で確認し薬箱にセットしている。利用者の殆どが薬が必要で、安全に与薬するために、利用者が飲み込むまで確認し、飲み忘れなどの誤薬がないよう2人体制で対応している。服薬支援の手順は、ミーティング等で確認しているが、口頭のみとなっている。	服薬支援の手順は、ミーティング等で確認しているが、口頭のみとなっていることから、服薬支援マニュアルの作成が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に合わせて、自分で出来る事は行っていただき、見守りや時には介助を行うなど、自立支援につとめている。また、以前おこなっていた日課や趣味活動を再開し毎日を楽しみ過ごして頂けるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏祭りへの参加や、定期的な散歩やドライブなどの外出支援を行っている。時には、玄関先にて日向ぼっこを楽しみながら食事やおやつ時間を過ごすなど、外の空気を吸い、自然を楽しむ配慮を心がけている。	毎年利用者全員で初詣に出かけたり、事業所前の道路からトライアスロンの選手を応援したりしている。日常的には、事業所の周りを自力歩行や杖歩行などでゆっくり散歩している。車椅子利用者は玄関前で外気を浴びている。毎月1回程度は、ドライブをしながら地域と触れ合える支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、希望者に対してのみ実施している。領収書の保管や帳簿をつけるなどの管理を行い、ご家族への報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常に手紙のやり取りや、電話をかける・受ける、入居者一人ひとりが手掛けた年賀状を送るなどの支援を可能な限り行っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が談笑したり音楽を楽しむ環境や、家庭的な雰囲気作りに努めている。また、ソファや畳間にてくつろいでもらえるよう、いつでも利用出来る状態にしてある。月ごとの行事の飾り付けを共に行い、入居者みずから雰囲気作りに参加している。	居間兼食堂に、毎年恒例の利用者と職員の「書初めと福笑い(手形の入った書初め)」の作品が掲示されている。毎日の数字を取り替える手作りのカレンダーや行事などの写真がレイアウト良く掲示されている。七夕の短冊や正月の門松を利用者と一緒に製作し飾るなど、居心地のよい共用空間となるよう工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月 4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では他入居者と音楽を聴いたりテレビ鑑賞したり、気の合う入居者同士が気兼ねなく過ごせるよう、家具の配置を配慮している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての入居者が馴染みの環境で過ごせるよう、ご家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を利用し心地よい環境づくりを心がけている。また、使い慣れた家具等の持ち込みが少ない方は、職員、ご家族、入居者で相談し、花を飾ったりポスターを張るなど落ち着ける雰囲気を作るように努めている。	作りつけの洗面台や収納庫、ベッド、クーラー等のある居室の壁に、利用者が楽しみにしている、担当職員が誕生日に贈った本人の個性あふれた表彰状が掲示されている。写真や時計、相撲のポスター、テレビ、ソファー、ラジカセ、漫画を持ち込んだり、趣味の帽子等を壁に数点飾ったり、利用者が使い慣れた品で過ごせるような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は死角が少なくなるよう設計されており、いつでも入居者の状況を把握できるように配慮されている。居室やトイレ等には目印をつけ、見守りや誘導を行いながら安全を確保し、自立した生活が送れるように努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム まきや

作成日 : 平成 31 年 2 月 6 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の議事録は整備されているが、訪問者が議事録を閲覧できない状態である。	訪問者がいつでも議事録を閲覧できるようにする。	議事録を入り口の棚に置く、訪問者に閲覧場所を説明する等、いつでも閲覧できるような体制を整える	1ヶ月
2	35	消防訓練は年に2回行われているが、夜間想定のための訓練になっている。	日中想定の実施を行う。	今年度中に日中想定の実施を計画し、実施する。	2ヶ月
3	40	いままで以上に食事を楽しむ工夫を検討。	雰囲気作りを意識して食事をより楽しく出来るようにする。	生け花や食事マット、食器など華やかな食卓作りや、スタッフが同じ物を食べ会話する事で、楽しい雰囲気をつくる。	1ヶ月
4	47	服薬管理は専用の薬箱を使用し、薬箱へのセット、服薬時の確認いずれも2名体制で行っているが、書式化したマニュアルがない。	服薬マニュアルを作成する。	服薬支援事態はしっかりとした管理体制のもと行い周知徹底されている為、その具体的な方法を書式化し保管する。	1ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。